大分合同新聞

# 祖母・傾・大崩エコパークに

ワークシート

年　　組　　名前

① 「エコパーク」とは何かを端的に説明している語句を、記事から抜き出しましょう。

② エコパーク登録につながった要素を四つ、端的に記事の前半部から抜き出してください。

③ 記事を基に、登録地域に住む人たちの生活の営みをまとめてください。

## 祖母・傾・大崩エコパークに

### 登録、県内で初

### ユネスコ決定

国連教育科学文化機関（ユネスコ）は14日、自然と人の共生を図る生物圏保存地域「エコパーク」に、大分、宮崎両県にまたがる山岳地帯「祖母・傾・大崩」を登録した。群馬、新潟両県の利根川源流域「みなかみ」と共に審査で認められた。大分県内では初めてで、国内の登録は計9地域となった。（19面に関連記事）

14日にパリで開かれた国際会合で決定した。「祖母・傾・大崩」は2県6市町の計24万3672ヘクタールが対象。大分県は佐伯、豊後大野、竹田各市、宮崎県は延岡市、高千穂、日之影両町が含まれている。

対象エリアは急峻な山岳と美しい渓谷が広がる。標高に応じて照葉樹林から夏緑樹林まで幅広い植生があり、日本列島の各地に分布する森林生態系が凝縮されている。特別天然記念物のニホンカモシカなど希少な生物がすみ、動植物の多様性に富んでいる。

自然環境を生かした農林業が基幹産業で、特に乾シイタケの栽培や木材生産が盛ん。地域には自然への畏敬の念や神楽など民俗芸能が継承されている。

登録による地元への効果として▽国内外への情報発信力の強化▽世界基準の認定によるブランド価値向上▽環境教育や研究拠点としての活用―などが見込まれているという。

大分県と県内3市は2014年から登録を目指して活動してきた。広瀬勝貞知事は「優れた景観や貴重な動植物が保護されており、素晴らしい自然と人間社会の共生が世界のモデルとして評価された」と喜んだ。

今後は10年ごとに環境が守られているかなどの審査がある。大分、宮崎両県でつくる推進協議会の杉浦嘉雄共同代表（日本文理大学教授）は「環境保全と地域経済の持続可能な発展を図り、次世代に仕組みを継承できるように連携して取り組みたい」と話した。

（加納慶）

**祖母・傾・大崩 ユネスコエコパークの対象エリア**

※カシミール3Dで作製

**エコパーク**

ユネスコが認定する「生物圏保存地域」の国内での通称。環境保全だけでなく、自然と調和しながら地域社会や経済の発展を図ることが特徴。自然を厳格に守る「核心地域」、人が暮らし、環境に配慮して持続可能な発展を目指す「移行地域」、両地域の間にあり、教育・研修にも活用される「緩衝地域」で構成する。世界で120カ国669地域（2016年3月時点）が登録。国内は南アルプス（山梨など3県）、屋久島（鹿児島県）などが認定されている。

（2017年6月15日付朝刊1面）